

発行
2022年12月
No.35

日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部 ニュースレター

発行人
支部長 木佐 健悟

北海道ブロック支部事務局
(市立美唄病院内)
TEL:0126-63-4171
mail:hpca.jimukyoku@gmail.com

北海道ブロック支部広報委員会

編集前記

こんにちは。広報委員の大久保です。

北海道はすっかり雪景色となり、寒くなりましたが、クリスマスやお正月とあたたかさを感じられる季節ですね。

今回は初めてのニュースレター編集を任せられ、ドキドキしつつも、ワクワクしながら取り組みました。中学生のころ新聞係で、こだわりのレタリングを描くのが好きだったことなんかを思い出して、ちよびり大変な編集作業も楽しかったです。

感染症の流行などもあり大変な日々かと思いますが、少しほっこりできるニュースをお届けできたらと思います。

支部会員リレーコラムや若手医師学生支援委員会からの報告などなど、写真もたくさんです。ぜひご覧ください！

また、支部会員リレーコラムの自薦他薦がありましたら、ぜひ広報委員会へお声かけください。



札幌市中央区 イルミネーション

第10回 北海道プライマリ・ケアフォーラム 延期のお知らせ

日頃よりお世話になっております。第10回北海道プライマリ・ケアフォーラムの実行委員長を務めております湯浅駿と申します。

今年の11月19日に予定されていた第10回北海道プライマリ・ケアフォーラムは新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い来年度へ延期することとなりました。参加を予定されていた皆様にはご迷惑をおかけしてしまい大変申し訳ございませんでした。

なお学術集会のみ Zoom でのオンライン配信に切り替えて開催することができました。道内で活躍されている先生方の日頃の臨床の成果を拝見し、自分の日々の臨床を改めて振り返る良い刺激を得られる機会となりました。

今年予定されていたワークショップは一部を除き、**2023年2月11日に Zoom でのオンライン開催**を検討しております。詳細が決まり次第改めてご報告させていただきます。なお**特別講演、基調講演は来年度へ延期**を検討しています。

来年度に向けてよりパワーアップした第10回北海道プライマリ・ケアフォーラムを開催できるよう実行委員一同準備を進めて参ります。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



トピック① 支部会員リレーコラム

今回は由仁町の「由仁町立診療所」で奮闘されている島田啓志先生から「訪問患者さん」や「かかりつけ」をテーマにコラムをいただきました。

とっても素敵な由仁ガーデンと街並み、そして、診療所のスタッフのみなさまの素敵な写真も掲載させていただきました！

「コロナ禍における在宅医療」の取り組みのQRコードにもぜひアクセスください。

トピック② 若手医師学生支援委員会 から学生向け勉強会の報告！

2022年11月18日(金)に旭川医科大学で「総合診療・家庭医療ってなに？」という勉強会が開催されました。

講師は市立旭川病院鈴木聡先生、北星ファミリークリニック村井紀太郎先生、看護学科、医学科から10名の学生さんが参加してくれました。

運営の手稲家庭医療クリニック谷村夏姫先生からの報告と学生代表宇高彩さんの感想をいただきました！

トピック③ その他の情報

第10回北海道地方会が2023年6月24日(土)にかでる2・7で開催されることになりました。テーマは「持続可能な地域医療をめざして～コロナ禍を経て、いま考える～」実行委員長の佐々尾航先生から挨拶をいただきました！

木佐健悟支部長からの「集めた会費を何に使う？」その他、道庁補助事業のご案内など。



高台からの由仁町の街並み

トピック①

支部会員リレーコラム！

島田 啓志 先生（由仁町立診療所）



「コロナ禍における在宅医療」

<https://00m.in/crFWm>

「訪問患者さん」や「かかりつけ」

「はぎわらさんは訪問患者だから、今から往診します」

「やまざきさんは外来患者だから、午後に外来きてもらいます」

「よしもとさんは〇〇医院がかかりつけだから、まずそこに相談してもらいました」

私は上記のような理由で対応が変わる医療現場に違和感があります。

当院は数年前より町内の緊急通報装置を設置している方々への医療相談・往診対応を始めています。愛称は「ゆにくりホットライン24」です。緊急通報装置は、町内の一人暮らしをする高齢者や障害を抱える方が設置できます。ですので、由仁町の独居高齢者は、訪問診療を利用していなくても、当院に受診歴がなくても24時間の在宅医療サービスを利用できます。このように、当院は、「在宅医療は地域に住むすべての人々が平等に医療や保健・福祉のサービスをうけられるための一手段」と考えて事業を展開してきました。

ですが、当院はコロナ禍の中、地域住民のニーズに応えられたのでしょうか？ バスで通っていた患者さんが発熱してしまい、タクシーも利用できず発熱外来にかかれない方や、かかりつけがコロナ治療をしないため抗ウイルス薬の治療機会を奪われている方も目の当たりました。第一線の医療機関は、このような事例を拾い上げ、個別対応することに存在意義があり、地域医療の「最後の砦」だと考えておりますが、現実には微々たることしかできていません。しかし、医療機関が乱立する都市部ではなく、医療資源が乏しく人口が少ない郡部だからこそ、できる医療があると信じ、あきらめてもおりません。

当院の弱みは数え切れないですが、郡部で随一の在宅療養支援診療所としての強みがあります。その強みを活かす（転用する）ことで、より地域に役立てると考えています。いつの日か、マンパワーが充足されれば、次は「地域で訪問看護を利用している患者は在宅患者でなくても、往診対応」という様に往診対象を広げていきたい。「訪問患者さん」であろうがなかろうが、「かかりつけ」であろうがなかろうが、地域で困っている人がいれば、当然のように必要があれば医師や看護師など援助職の訪問を受けられる地域を夢みて働いています。そのような取り組みに加勢したい総合診療医の先生がいれば、ぜひ、由仁町立診療所に！ 当院は常に医師募集中です！

島田です！



由仁ガーデン

トピック② 「総合診療・家庭医療ってなに？」@旭川医科大学！

手稲家庭医療クリニック専攻医

谷村夏姫先生

2022年11月18日に旭川医科大学で学生向け勉強会「総合診療・家庭医療ってなに？」を開催しました。

以前より北海道3大学向けに総合診療・家庭医療を身近に知ってもらうために勉強会を開催していましたが、コロナ禍でオンラインでの開催が続いており久しぶりの現地開催となりました。

講師として、市立旭川病院 鈴木聡先生、北星ファミリークリニック 村井紀太郎先生をお招きし、私 手稲家庭医療クリニック 谷村夏姫も参加させていただきました。学生は看護科、医学科両方から10名の参加があり、学年問わず参加されていたのが印象的でした。

最初に、各講師より自己紹介や総合診療・家庭医療を目指すきっかけ、ジェネラリストの面白さ、奥深さについてお話がありました。鈴木聡先生からは、一度消化器内科のスペシャリストとして働かれた後に震災をきっかけに総合診療を志した経験について、村井紀太郎先生からは患者さんやメンターとなる指導医との出会いの中で、どのようなキャリアを重ねていったかについてお話頂きました。私からは、公衆衛生によって人の健康に関わりたいと思った経験から、学生時代の健康教室の活動や現在の外来や在宅での学びについてお話させていただきました。講師それぞれのきっかけや現在のフィールドが異なっており、総合診療・家庭医療が持つ幅の広さを感じられました。

その後、各先生方を中心にブロックに分かれてのグループワークが行われました。

病棟総合診療、外来、訪問診療とそれぞれの講師で特徴のあるグループワークで、議論が白熱し時間内に収まらないグループもありました。私のグループでは、認知症終末期で誤嚥を繰り返す患者で、主介護者の娘と話し合いを重ねながら自宅で看取った症例を紹介し、患者や家族の望みをどう叶えていくか、家族が抱える不安をどう解消していくか、在宅でできる治療やできない治療、入院のメリット・デメリットについて学生と一緒に考えました。

大学ではなかなか触れることのない総合診療・家庭医療ですが、臓器特異的ではなく患者さん全体を診る面白さや家族、地域にも目を向けるやりがいを感じてもらえる会となったのではないかと思います。学生さんからの感想では、現地開催で講師との距離が近く話しやすかったという声や、総合診療・家庭医療の温かさを感じられたとの声があり嬉しく思います。

最後に、お忙しいなか講師を務めて頂いた鈴木聡先生、村井紀太郎先生に厚く感謝申し上げます。今後も学生が総合診療・家庭医療に興味を持ってもらえるよう活動を続けていきたいと思っています。



旭川医科大学医学部医学科4年

宇高彩さん

今回、旭川医大に家庭医/総合診療医をお招きし、プライマリ・ケアを仲間と共に学ぶ貴重な経験をすることができました。

大学とは異なるフィールドで働く先生方から、この領域だからその魅力やそれまで歩まれた道を聞くことができました。病気を診ることはもちろんですが、人を診るために身につけるべき技術があること、そのトレーニングを積むための研修プログラムが多様にあること、そこに持つ先生方のやりがいの素晴らしさを学びました。また現場の話を聞くなかで、今より一歩先の景色もみることができ、大学での学びがこの先どのように活かされていくのかを理解するよい機会にもなりました。

主催者としては、参加者の新たな世界が広がっていくのもよくなり、素敵な時間を過ごすことができました。日ごろから、学生が「家庭医療」「総合診療」リアリティあるイメージを抱くことが難しいと感じていましたが、それは大学生活から一歩離れるという機会が足りないせいかもしれない、と考えさせられました。会が終わると、病院見学を申し込む学生もおり、よりリアルをインプットする輪が広がっていくといいなと思います。

今後も心理的安全性の高い場所を作りながら、私も多くを学びつつ、医学生が自分自身の可能性を広げるきっかけを提供していきたいと思っています。

学会のサポートをはじめ、大学まで足を運んでいただいた3人の先生方、心から感謝しております。ありがとうございました。

若手医師学生支援委員会

トピック③

第10回北海道地方会が2023年6月24日に開催決定!



北海道地方会の実行委員長は北海道立羽幌病院の佐々尾航先生です。メッセージをいただきましたので、ご紹介します。

2023年6月24日(土)に開催される第10回北海道地方会の実行委員長をつとめさせていただきますこととなりました。2022年10月より実行委員会を立ち上げ、既に3回の会議を行い準備を進めております。

第10回地方会のテーマは、「持続可能な地域医療をめざして～コロナ禍を経て、いま考える～」とさせていただきます。新型コロナウイルス感染症の流行は、私たちの日々の診療や活動に大きく影響を及ぼしました。通常と異なる日々が強いられ、コロナ禍で得たことあれば、失ってその大切さに気づいたこともあるかと思っています。流行から約3年が経過しますが、その間にも、地域包括ケアシステム構築の目途とする2025年が間近に迫ってきました。感染症に限らず、気候変動や地震などの災害、高齢化や人口減少などによる地域社会の変化など流動的な環境の中でも、持続可能な地域医療を住民の方々に届けることが私たちの使命であると感じております。

基調講演として、福井大学医学部地域プライマリケア講座教授の井階友貴先生をお招きする予定です。「まちづくり系医師」として福井県高浜町で住民・行政・医療による協働に取り組まれています。地域に出て、ソーシャルキャピタルを高める活動をされていますが、コロナ禍を通じての変化などをお聞かせいただくこととしております。そのほかにも例年同様に、シンポジウムやワークショップなどの企画や、学術も予定しております。

地方会は2020年は中止、2021年、2022年と対面での開催も模索されておりましたが、オンラインでの開催となりました。これまで遠方で参加が難しかった方も参加できたり、より活発な質疑応答など新たな一面もありました。しかしながら、オンラインでは任意の方とお話しできる機会が得づらく、新しいつながりも生まれにくいと感じておりますし、インタラクティブな会を期待する声もあります。そのため現地開催、基調講演の配信を軸に検討しております。私自身このような大役の経験はございませんので、実行委員のみなさまに御協力いただきながら、有意義な会にすべく準備を進めております。多くの皆様に参加いただけることを願っております。

〈開催概要〉

【日時】令和5年6月24日(土) 13:30~18:10

【会場】北海道立道民活動センター(かでの2.7)

【対象】学生、研修医、若手医師、各種医療専門職、北海道ブロック支部会員、非会員

※詳細が決定しましたら、お知らせします!

トピック③



プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部長の本佐健悟です。

コロナになって3回目の冬です。ニセコは外国人観光客が増え始めました。外国人診療に興味のある方、外国人患者さんが増えるのは冬期が中心ですが、見学、就職、お待ちしております！

集めた会費を何に使う？

日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部は、学会の8つのブロックの中で唯一支部独自で会費を集めているブロック支部になります。ブロック支部が設立された際に、本部からの助成金だけでは、支部の活動費がまかなえない見込みだったことから、支部会費を徴収することになったと聞いております。使い道は、北海道地方会、北海道プライマリ・ケアフォーラムの会場費や基調講演の講師謝礼、事務局のパソコンやプリンターなど多岐にわたります。事務局の皆様にはボランティアで関わってもらっていますが、必要な物品は支部で購入する必要があります。会費を集めていない他ブロックでは地方会の参加費を北海道より高めに設定するなどそれぞれ活動費を捻出する工夫をしています。

2020年からの新型コロナウイルス感染症の流行により、地方会などの現地開催が中止となったことで例年より支出が減り、結果的に累積黒字が増えました。(オンライン開催でも業者にお問い合わせすれば現地開催するより高額になることもありますが、事務局で配信をマネジメントしていただいたおかげで経費削減につながりました。)

このため、2020年から2022年にかけてのオンライン開催の地方会、フォーラムについては、徴収が手間になることと節約できる会場費と相殺できると判断して、参加費は無料としました。また、延期となった第10回北海道プライマリ・ケアフォーラムも現地、オンライン参加問わず無料にする方針でした。

地方会やフォーラムの会費は、例年会員2000円、非会員4000円でしたが、これは過去に幹事会で議決して決めたため、無料にするかは都度幹事会で相談して決めていました。

現在、2023年度の地方会の準備を進めていますが、実行委員会の中で非会員の4000円は高いのではないかと、という話が出ました。例えば、『初回無料』だったら知人を誘いやすいのに、ということです。ただ、誰が初回で誰がリーダーかを受付でチェックするのは困難です。やるのであれば『全員無料』ということにするしかないと思います。

この議論の流れで、私も会費をどう使うのが良いのか改めて考えるようになりました。会費を払った人(すなわち会員)にメリットがある形にするのであれば、会員のみの特典を用意したり、会員と非会員の価格差をつけて会員を安くしたり、というのがその方法になります。今まではこの形でやってきました。

ただ学会やブロック支部は何のためにあるのか、ということ念頭に、例えば「北海道ブロック支部規約」を眺めると、そこには北海道のプライマリ・ケアの発展が主な目的、と書いてあります。集めた会費は必ずしも個人に還元するのではなく、参加費を無料にすることで、プライマリ・ケアに関わる仲間が増えるように活動していくことも一つの形と考えるようになりました。

皆さんはどうお考えになるでしょうか。

2023年度の地方会の会費を無料にするかは、2023年2月上旬に予定している幹事会で議論する予定です。北海道ブロック支部では会員からの選挙で選ばれたメンバーで構成される幹事会がブロック支部の活動方針を決める場になっています。

会員の皆様からのご意見があれば、ブロック支部事務局までお寄せください。幹事会での議論の参考にさせていただきます。



その他のお知らせ ぜひご活用ください！

① 道庁補助事業について

現在新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いあまり利用がありませんでしたが、現在も地域医療体験実習のための費用助成を継続中です！ぜひ医学生の方はご利用いただければと思います。

<https://jpca-hokkaido.jp/%e4%bd%93%e9%a8%93%e5%ae%9f%e7%bf%92%e3%83%bb%e6%96%bd%e8%a8%ad%e8%a6%8b%e5%ad%a6%e3%81%ab%e8%a6%81%e3%81%99%e3%82%8b%e8%b2%bb%e7%94%a8%e5%8a%a9%e6%88%90%e3%81%ab%e3%81%a4>

② ブロック支部内部組織及び活動状況について

現在、広報委員会、若手医師・学生支援委員会、薬剤師部会が各々活動&計画中です。引き続き情報があれば随時共有していきます。まだFacebookのご登録をされていない方々もぜひ登録を！

<https://www.facebook.com/Hokkaidoprimarycare/>

③ 支部の予算について

新型コロナウイルス感染拡大により、昨年度事業をあまり行うことができなかったこともあったため、内部留保があります。このため今年度の北海道地方会および北海道プライマリ・ケアフォーラムは無料としました。来年度にむけて、みなさまのご意見を募集しております。

北海道ブロック支部事務局 hpca.jimukyoku@gmail.com